

なまけもの錬金術のすすめ

## リーダーはやる気を与える

人をリードするということは、人にやる気を出させるということです。では、何が一番やる気を出させるでしょうか？

人にやる気を出させる力は、大きく分けて二種類あります。外側からの動機付けと、内側からの動機付けです。

外側からの動機付けは、例えば、人の尻を蹴飛ばすことです。尻を蹴飛ばすというのは、文字通り蹴飛ばす場合もあれば、比喩的な場合もあります。尻を蹴飛ばせば、多くの場合は、すぐに効果があります。しかし、こうした外側からの動機付けには、限界があります。

第一に、やる気を出させようとするたびに、毎回、その人の尻を蹴飛ばさなくてはなりません。

第二に、蹴飛ばすと足が疲れますし、靴が傷みます。それに、もっと悪いことには、つま先が痛くなるかもしれません。

第三に、尻を蹴飛ばすと、その尻の持ち主が「いたい！」と大声を上げるかもしれません。その大声で、職場の静かな雰囲気は乱れてしまうかもしれません。

尻を蹴飛ばすというのは、外側からの動機付けの否定的な例です。

外側からの動機付けには、肯定的なやり方もあります。例えば、雇用主は、労働時間を短縮する、賃金を上げる、ボーナスを出す、などの方法を用いて、従業員のやる気を喚起します。しかし、こうした方法は、すぐに効き目がなくなります。従業員のやる気を維持することはできません。

人々のやる気を引き出し、それを維持する方法は、一つしかありません。人々が自分で自分を動機付けられる機会を与える。

これしかありません。これが内側からやる気を出させる原則です。

しかし、内側からの動機付けにも、否定的と肯定的の二種類があります。

否定的な動機付けを利用するリーダーは、部下に恐怖心を与えて、それによって部下を動かそうとします。人に罪の意識を植え付けて、それによって人を自分の望み通りに動かそうとする宗教家や母親もいます。

しかし、内側からの動機付けで最も効果的なのは、肯定的な方法です。それは遊びや愛といった要素を利用した方法です。

そのためには、人々に自由と、やりがいと、責任を与えることです。人々に、自分を

表現する手段を与えてください。人々に、熱意をもって活動できる場を与えてください。人々に、人間として最大限に成長できる場を与えてください。そうすれば、会社の業績や生産性が向上するだけでなく、従業員も大きな満足が得られるはずですよ。

人々は、自分も参加したいと考えています。人々は、人に必要だと思われたいと考えています。人々は、自分の運命は自分で決めたいと考えています。人々は、人から頼りにされたい、責任を持ちたい、と望んでいるのです。

ですから、リーダーの仕事は、極めてシンプルです。リーダーは、ただ人々を解放すればよいのです。人々は、みんな自分のやる気を持っています。ですから、リーダーはただ、人々が創造性や生産性を発揮できるような愉快的場を創ることによって、人々の才能を解放すればよいのです。

## 疑わしい労働の報酬

- ・ 休みもせずにせつせと働くことによって
  - ・ 額に汗して働くことによって
  - ・ 身を粉にして働くことによって
  - ・ 人にこき使われることによって
  - ・ 劣悪な作業環境で搾取されることによって
- 富や健康や成就を得たいと願う人が実際にいるのでしょうか？
- こんな仕事をしていたら、その人は成功するどころか、喜びを失い、創造性を失い、疲れ果て、病気になって、そして、早死にしてしまうかもしれません。
- 仕事は決して自然な活動ではありません。心臓発作、胃潰瘍、頭痛、アルコール中毒、麻薬の乱用、家族の崩壊、不眠症、消化不良が、（おそらく仲間を蹴落として出世した後で得ることになる）仕事の直接的な報酬です。
- では、このような仕事に代わる方法は何でしょうか？
- 私はこの質問を歓迎いたします。
- 仕事に代わる方法とは、仕事を完全に回避することです。そして、その結果として、

最大の夢よりももっと大きな結果を得ることです。

怠け心というのは、仕事を回避しようとする態度です。あるいは、最悪の場合でも、仕事を最小限に抑えるという態度です。やる気さえ伴えば、これは実に称賛すべき態度です。私たちはそれを誇りに思うべきです。そして、そうした態度をもっと養うべきです。なぜなら、そうした態度こそが、全ての自然法則と完全に調和している態度であり、そうした態度こそが大成の秘訣であるからです。天から与えられた怠け心を賢く利用する人は、どんなことでも成し遂げることができるでしょう。

私たちに怠け心という贈り物をくださった神様は、たいへん親切な神様です。神様は決して、私たちを働かせようなどとはお考えになりませんでした。父親というものは、子供に自分と同じ様な道を歩ませたいと思うものです。それと同じように、人間をお創りになった神様も、仕事をしないという神様の方法を真似てほしいと思っただけです。

## 神がとられた七日目の休息

「神がこの世界をお創りになったとき、神は仕事をなさったものではありません。

世界の創造が神にとって仕事であったなどと、どうして考えられましょうか？

神は全能であるといえます。そうだとしたら、神が重い物を上げ下げしたなどということはありません。

神は全知であるといえます。そうだとしたら、神が世界の細部をどうしようかとあれこれ思い悩んだなどということはありえない。

神は偏在だといえます。そうだとしたら、毎日職場へ通勤するなどということはありえない。

ですから、天地の創造は、神にとっては仕事なんかではなかったはずで

神は全知全能なのでから、考えられる結論はただ一つです。神はその限りない意識の中で、世界を創造しようとは微かにお考えになった、ただそれだけで、この世界の全てを創造されたのです。

もし、神が何かそれ以上のことをされたと私たちが考えるならば、それは神の無限の力を低く見積もってしまうことになるでしょう。

しかし、もっと素晴らしいことがあります。

それは、神が六日間そのような全く努力なしの創造をなさった後に、さらに七日目に休息をおとりになったということです。

神はご自分の姿に似せて人間をお創りになったといえます。そうだとしたら、この素晴らしい神からの贈り物を、私たちは人生にもっと活用するべきです。六日間は努力なしの創造的な活動、そして七日目には休息です！」

## 母なる自然は、努力しないお母さん

神は天地創造のときに仕事をなさらなかった。それだけではありません。

神はこの全宇宙を、仕事をしないという原理を中心にして設計されました。

つまり、神によって創造されたこの母なる自然もやはり仕事をしないのです。

自然は努力をしません。自然は、何かをしなければならぬような状況になったときには、いつも最少の仕事ですむような方法を選びます。

このような母なる自然の素敵なやり方に、物理学者たちは「最少作用の原理」という



名前を付けました。この原理は、十八世紀に、ラグランジェ、ハミルトン、ヤコービらによって発見されました。彼らはいずれも、当時は天体の運動を研究していた著名な科学者です。

その後の研究で、最少作用の原理は、天体の運動だけでなく、電磁気、光の伝搬、量子論など、あらゆる分野の運動の法則の元になっている原理であることが明らかになってきました。言い換えると、この宇宙の中の一切が、この楽しい「最少作用の原理」に従っているということです。

例を挙げてみましょう。ボールを空中に投げ上げると、ボールはジグザクな軌道ではなく、滑らかな軌道を描きます。ボールは、上がっていくときも落ちてくるときも、いつでも最も容易で、最も時間がかからない、最も真っ直ぐな軌道をたどります。科学者たちはこの単純な現象を次のように説明します。ボールは、運動エネルギーと位置エネルギーの差を時間で積分したもの（これを作用という）を最少にするように動く。その結果として、ボールは最も容易で、時間が最短の、最も真っ直ぐな軌道を描くのです。

結論は明らかです。母なる自然は、怠け者のお母さんなのです。